

## 令和7年度 事業計画

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

# I 公益目的事業

## [ 公1 コンクリートに関する調査研究事業 ]

### 1. 調査研究事業

#### (1) 研究委員会所管の委員会

##### 1) JCI-TC231A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会

(令和5-7年度)

石灰石微粉末をコンクリート分野においてカーボンニュートラル材料としても積極的に活用していくために、これまでのコンクリートでの利用状況と効果や課題を取りまとめ、実用に資する資料を提示することを目的とし、①石灰石微粉末を活用したコンクリートの実績等についてコンクリート製造・施工分野における配(調)合の種類等の特徴や出荷実績の詳細なアンケートと文献による利用実績調査、②セメント製造分野等における石灰性微粉末の環境負荷低減効果、海外・国内のセメント規格における石灰石微粉末の位置付け、人工炭酸カルシウムの開発事例等の調査と今後の展望の検討、③石灰石微粉末の製造・流通の状況の調査とコンクリート製品での表面美観の改善効果に関する実験および材料品質の規格化の検討を行った。令和7年度はこれまでの活動成果を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催する。

##### 2) JCI-TC232A コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関する研究委員会

(令和5-7年度)

コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化の実現のため、今後活用が期待されるAI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の検討などの活動を2年間行った。令和7年度においては、これまでに検討してきた内容を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催する。

##### 3) JCI-TC233A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究会

(令和5-7年度)

建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、日米の構造設計実務における、非線形時刻歴地震応答解析の耐震設計のための用いられ方、特に、設計基準や制度の現状ならびに設計例による現在の慣行の違いについて2年間の調査活動を行なった。令和7年度はその成果を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催する。

4) JCI-TC234A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会  
(令和5-7年度)

既存実構造物における鋼材腐食に関して、構造性能の観点に立脚した診断対象領域の選定、非破壊検査手法の選定から検査結果の評価ならびにその時間軸空間予測に至る一連の内容や手順を取りまとめたマニュアル類の作成を目的として、これまで既往手法の整理、現地調査、基礎実験などを行ってきた。令和7年度は、これまでの活動で得られた成果を報告書として取りまとめ、報告会を開催するとともに、公募による一般投稿論文の発表も実施する。

5) JCI-TC241A コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会  
(令和6-7年度)

自己治癒材（無機系、有機系、微生物系等）の効果発現に対する環境影響の評価および効果が持続するための環境条件について知見を整理し、コンクリート内部環境の評価指標を抽出する。また、微生物系と種々の繊維を用いた新奇な材料開発に関する知見整理と実験的検討を共通実験として実施する。特に、効果発現・持続性の異なる種々の自己治癒材を用いて製作した供試体および実構造物を対象とし共通試験を実施し、自己治癒効果や補修性能を評価する物理量・環境指標を計測して、時間軸を加味した間接的/直接的評価方法の再現性、精度について検討する。

6) JCI-TC242A コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会  
(令和6-7年度)

数百 MHz～数百 THz の周波数帯の電磁波に関して、従来の鉄筋探査等への適用だけでなく、コンクリート内部や損傷状況の可視化、塩分・水分等の劣化因子の把握、鉄筋腐食状況の評価等のコンクリート分野への高度利用に対する技術の調査、普及のための検討を行う。コンクリート分野だけでなく、関連する分野の研究開発動向、適用事例等について幅広い調査を行い、技術の現状として取りまとめる。また、これらの新技術の適用性を横断的に評価するための共通実験を実施する。将来的には、本学会刊行物「コンクリート診断技術」への技術情報の提供等を行い、技術の普及に寄与する。

7) JCI-TC243A 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会  
(令和6-7年度)

現行の5年毎の橋梁点検などで劣化を把握できるのは、既に鉄筋腐食が進行した状況であることが多く、その対策は事後保全的になることが多い。劣化の初期段階において精度よく劣化状況の評価する点検手法を確立し、維持管理手法を予防保全型へと移行させるために、①中性化深さの評価方法、②塩化物イオン濃度の評価方法、③鉄筋腐食度の評価方法を検討するWGにおいて、中性化および塩害を対象としたコンクリート構造物の予防保全を目的とした点検方法について文献調査および実施状況の調査を行い、予防保全に適用できる点検技術の体系化、技術の選定方法について取りまとめ、予防保全型の点検方法の提案を行う。

#### 8) JCI-TC244A 鉄筋コンクリート造建造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会

(令和 6-7 年度)

自治体における津波防護施設・避難施設の設計における技術的資料となるべく、2011年東北地方太平洋沖地震以降、研究者レベルで行ってきた津波荷重を対象とした鉄筋コンクリート造建造物や部材の局部破壊に対する構造設計法に関わる研究や実設計の事例等を文献収集するとともに、津波作用時に地震力とは異なる鉄筋コンクリート造柱やはりなど耐圧部材の波圧による損傷、漂流物衝突荷重や堰止め荷重、2方向外力の影響、基礎地盤の洗堀、津波荷重に対する既存建築物の部材補強、免震構造における設計上の留意点、粘り強い防潮堤の設計方法等を取りまとめる。さらに、既存建物の鉄筋コンクリート造柱を想定した縮小模型の衝突載荷実験を行い、鋼板でジャケッティング補強した柱の補強効果について衝突実験により実証する。

#### 9) JCI-TC251A コンクリート建造物の崩壊過程の予測・評価に関する研究委員会

(令和 7-8 年度)

鉄筋コンクリート系の土木建造物・建築物は、大規模地震に際して倒壊・崩壊に至る場合がある。建造物単体の性能だけでなく様々な要因が考えられるが、解析的にその挙動を予測・評価する手法は確立されておらず、非線形 FEM 解析をはじめとした詳細解析から大規模モデルまでのさまざまな解析技術が用いられている。本研究では、将来に向けた防災や災害対策に貢献することを目的とし、土木建造物・建築物の崩壊過程の予測や評価手法について研究・技術開発情報を収集し知見を整理すること、および倒壊や崩壊の定義方法の明示や、少なくとも考え方の指針を提示することを目標とする。

#### 10) JCI-TC252A カーボンニュートラルを視野に入れた基礎・地盤に用いるコンクリート系技術の土木・建築共通化に関する研究委員会

(令和 7-8 年度)

セメント・コンクリートは杭基礎や地盤改良のように基礎・地盤にも用いられているが、これまでは地盤工学側から扱われることが主であり、コンクリート工学側からのアプローチが少なかった。そのため、設計・施工における取り扱いが土木・建築のような分野間で相違している。そこで、コンクリート工学の観点から各分野で適用されている設計・施工に関する技術基準類や研究の実績を調査し、相違点を明らかにするとともに、共通化の可能性を検討する。また、基礎や地盤改良はカーボンニュートラルを実現するための Carbon Capture & Storage として有望であり、コンクリート系技術による貢献の可能性を検討する。

#### 11) JCI-TC253B コンクリート構造とコンピュータビジョンの融合に関する研究委員会

(令和 7-8 年度)

デジタル画像相関法 (DIC) に代表されるコンピュータビジョンを活用したコンクリート系の構造実験の事例を収集するとともに、コンピュータビジョンのプロセスにおける画像処理とその結果に影響する DIC の撮影・解析条件を整理する。さらに、面的な変形挙動を把握できる DIC を活用して (1) DIC と有限要素法による出力結果を対応させる要素サイズとひずみ計測精度の検証、(2) 普通・繊維補強コンクリートを対象に DIC を活用した損傷評価法の構築、および (3) 計測ひずみ分布に基づく構造に作用する軸力、せん断力、曲げモーメントの推定方法を検討する。

## 12) JCI-TC254B 高濃度 NaCl 水溶液を用いたコンクリートの配合設計に関する研究委員会 (令和 7-8 年度)

飽和濃度に近い NaCl 水溶液を用いたコンクリートは自己養生しつつ乾燥収縮も抑制するなど、性能が向上することがある。しかし、高濃度 NaCl 水溶液とした場合、練混ぜ水を希薄溶液として扱うことができなくなるため、溶質の存在を水溶液の一部として評価するか骨材の一部として評価するかによってコンクリートの性質が大きく変化すると予想される。そこで、実験および文献調査により、溶質の存在の評価の仕方の違いがコンクリートのフレッシュ性状および圧縮強度に及ぼす影響を明らかにすることで高濃度 NaCl 水溶液を用いたコンクリートの配（調）合設計の基本をまとめることを目標とする。

### (2) 技術委員会所管の委員会

#### 1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信することを目的としている。令和 7 年度は、運搬 WG でコンクリートの運搬についての報告会を開催し、年次大会では、歴代委員長によるこれまでの活動成果の報告とこれからの活動に関する意見交換を行う。また、新たな調査テーマについても検討していく。

#### 2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

前年度までの 8 か年にわたる活動に引き続き、共通試験 WG およびモニタリング WG にて活動を行う。共通試験 WG では、「端島（通称『軍艦島』）における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施した上で暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。また、70 号棟の実部材を対象とした補修試験施工を開始する。モニタリング WG では、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物（30 号棟）を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行うとともに、新たにモニタリングを実施する建築物の選定とモニタリング方法の検討を行う。

#### 3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025」を刊行し、10 月に大阪、11 月に東京で講習会を開催する。また、改訂版指針の英文化と国内外への普及方法について、マスコンクリートソフト普及委員会とも協力して検討する。

#### 4) 既存コンクリート構造物の性能評価指針改訂原案作成委員会

既存構造物の状態や保有性能を適切に評価し、補修・補強を加えながら長寿命化を図り、できるだけ長期間にわたって使用できる環境を作り上げることを目的として、2014 年に「既存コンクリート構造物の性能評価指針 2014」が刊行された。本指針は、既存コンクリート構造物の性能評価に対する一般的な要求事項とその方法や手順を規定するものであると同時に、実務者向けの数多くの情報はもちろんのこと、将来の方向性に関する研究者向けの情報も盛り込まれている。刊行から既に 10 年以上が経過したため、ここに改めて最新の情報を収集し、2028 年度中の改訂版

刊行を目指す。

**(3) 支部研究委員会** (確定している委員会のみ記載)

- 1) (北海道支部) 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会  
(令和 6-7 年度)
- 2) (北海道支部) 北海道の火山堆積物の利用研究委員会 (令和 6-7 年度)
- 3) (北海道支部) 破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会  
(令和 6-7 年度)
- 4) (北海道支部) 北海道におけるコンクリートの化学的浸食検討委員会 (令和 7-8 年度)
- 5) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会 (第Ⅱ期)  
(令和 6-7 年度)
- 6) (中部支部) 中部国際空港鉄道連絡橋材齢 20 年における疑似橋脚の物性等の調査研究委員会  
(令和 6-7 年度)
- 7) (近畿支部) 各種コンクリートの品質管理における DX 化・省力化および合理化に関する調査研究委員会  
(令和 7-8 年度)
- 8) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和 3-7 年度)
- 9) (中国支部) 土木および建築におけるコンクリート施工に関する調査研究委員会  
(令和 6-7 年度)
- 10) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
- 11) (四国支部) コンクリート構造物の品質確保のための新技術開発と実践に関する研究委員会  
(令和 5-7 年度)
- 12) (九州支部) 副産物・地域材料を用いたコンクリートに関するレビュー研究専門委員会  
(令和 6-7 年度)
- 13) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究成果報告委員会  
(令和 7 年度)

## 2. 標準化事業

**(1) 規準・指針管理委員会**

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針(改正)原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みの JCI 規準で制定(もしくは前回確認および改正)から 5 年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認/要改正/要 JIS 化/廃止の判断を行う。

**(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会**

令和 9 年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。また、令和 8 年度に見直し期限を迎える規格のうち、以下の規格について改正原案を作成する。

- ① JISA 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—化学法—
- ② JISA 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—モルタルバー法—
- ③ JISA 1191 コンクリート補強用 FRP シートの引張試験方法

### (3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会, TC71 の各分科委員会 (SC) および TC71 直下の WG 等の会合に TC 議長・委員会マネジャー, SC 議長・委員会マネジャー, WG コンビーナおよび関連分野のエキスパートを派遣し, 日本が主導する規格開発の説明を行い, 規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC71 において, 議長, 委員会マネジャー, コンビーナ, エキスパート (WG), および SC 担当委員の役割を遂行する。
  - ① TC71 (コンクリート, 鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート) : 議長および委員会マネジャー
  - ② SC1 (コンクリートの試験方法) : エキスパート (WG)
  - ③ SC3 (コンクリートの製造および施工) : コンビーナおよびエキスパート (WG)
  - ④ SC4 (構造コンクリートの要求性能) : エキスパート (WG)
  - ⑤ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準) : コンビーナおよびエキスパート (WG)
  - ⑥ SC6 (コンクリートの新しい補強材) : 議長, 委員会マネジャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
  - ⑦ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長, コンビーナ, エキスパート (WG)
  - ⑧ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長, 委員会マネジャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
  - ⑨ SC9 (鋼コンクリート合成・複合構造) : エキスパート (WG, AHG)
  - ⑩ TC71/CAG (議長諮問グループ) : コンビーナ
  - ⑪ TC71/WG1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビーナおよびエキスパート
  - ⑫ TC71/AHG1 (コンクリート材料の用語) : コンビーナおよびエキスパート
  - ⑬ TC71/AHG2 (コンクリートおよびコンクリート構造物の非破壊試験方法) : コンビーナ
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

#### (新規)

- ① コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント (使用段階)
- ② 施工時, 竣工時, 管理時のコンクリート構造物の非破壊試験方法

#### (継続)

- ① 水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計法 ISO 18407 (改正)
- ② 繊維補強セメント複合材料に用いる合成短繊維の分類 ISO/DIS 13182

- ③ 繊維強化ポリマー(FRP)によるコンクリートの補強—試験方法 ISO 10406-2 及び ISO 10406-3 (改正)
  - ④ コンクリート構造物の FRP 補強材 : FRP シートの仕様 ISO/DIS 18319-1 (改正)
  - ⑤ 火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修 ISO/NP 13117
  - ⑥ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO/DIS 13315-5 (コンクリート構造物の施工)
  - ⑦ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO/WD 13315-7 (コンクリート構造物の最終段階)
  - ⑧ コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量 ISO/WD 21282-1 (通則), ISO/WD 21282-2 (酸分解—逆滴定法), ISO/WD 21282-3 (熱分解—重量測定法)
  - ⑨ コンクリート用語 ISO/PWI 25511-1 (用語の分類についての原則)
- 5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC195/SC1 (Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務める。
- (4) JIS A 5023 再生骨材コンクリート L 改正原案作成委員会  
「JIS A 5023:2024 再生骨材コンクリート L」の追補改正原案を作成する。

### 3. 国際化事業

#### (1) fib

- 1) 技術評議会と総会に代表委員を派遣する。
- 2) PC 工学会と共同でナショナルレポート 2026 を作成する。
- 3) fib コンgress 2030 準備委員会において、2030 年に京都で開催される fib コンgress 2030 の開催準備を PC 工学会と共同で行う。

#### (2) ACI

- 1) ACI Concrete Convention に代表委員を派遣する。
- 2) 7th JCI-ACI Joint Seminar を 2025 年 7 月, コンクリート工学年次大会 2025 (盛岡) において実施する。

#### (3) RILEM

RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。

#### (4) ACF

代表委員を派遣するとともに、ACF の諸事業活動を積極的に支援する。ACF 総会・Executive Council 会議は、11 月 14 日～16 日にシンガポールにて開催される 5th ACF Symposium Advancing Sustainable Solutions from Concept to Concrete の期間中に予定されている。

#### (5) TCI

持続的なコラボレーション活動を進めるために、学生を含む若手研究者・技術者の交流を促進する。今年度は 7 月に開催される年次大会においてジョイントセミナーを実施する。午前は学生セッ

ション、午後は若手セッションとし、各セッションにおいて本学会および TCI から 5 名ずつの研究発表、意見交換を行う。さらに、この機会を利用して現場見学会を開催し、新たな研究や開発課題の発掘に繋げる。

#### (6) 2nd MC3 Conference

2026 年 9 月東京での国際会議開催に向け実行委員会にて準備を行う。本年 11 月頃から論文募集を開始する。

### 4. 受託研究事業

#### (1) ISO/TC71 対応国内委員会

国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を実施する。

- ・コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術に関する国際標準化 (TC71 幹事国対応業務を含む。)

#### (2) コンクリートおよび構成材料の CO<sub>2</sub> 固定量の評価方法に関する JIS 原案作成委員会

コンクリートおよび構成材料に固定化した二酸化炭素の定量方法に関する JIS の開発を行う。併せて、ISO/TC71 対応国内委員会と連携して国際標準化に向けた対応を行う。

#### (3) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する研究委員会

コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する基本的な考え方の取りまとめと、利用実態を踏まえた重金属類の溶出試験のあり方を検討する。

### 5. 出版事業

(1) コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'25」

(2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2025 年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」

(3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'25」(ダウンロード版)

(4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術 26」

(5) コンクリート工学年次論文集 第 47 巻 2025 年 (DVD 版)

(6) Technical Committee Reports 2025 (JCI 研究委員会報告書要旨：電子公開)

(7) 「コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会」報告書

(8) 「コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会」報告書

(9) 「コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会」報告書

(10) 「構造性能評価のための鋼材腐食性状の診断・推定手法および構造解析に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集

(11) 「コンクリート基本技術調査委員会 運搬 WG」報告書

(12) 「マスコンクリートソフト普及委員会」報告書

(13) マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025

## 6. 会誌発行事業

### (1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

年3回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| 1) コンクリート・ツーリズムの飛躍 | 2025年5月号 |
| 2) 創立60周年記念特集号     | 2025年9月号 |
| 3) (未定)            | 2026年1月号 |

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年9回掲載する。

### (2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

### (3) 英文ジャーナル

英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”を電子公開する。

## 7. 広報事業

### (1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、情報コミュニケーション委員会において本学会ホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)等により本学会の活動について広報活動を行う。

広報委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

#### 1) 情報コミュニケーション委員会

本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。主な活動は以下のとおりである。

- ① 月刊コンクリート技術(一般向けコンテンツ)を制作、公開する。
- ② メールニュースを作成し配信する。
- ③ 研究委員会報告書を会員専用ページに電子公開する。
- ④ 過去コンテンツ(増刊コンクリート技術等)の管理を継続する。
- ⑤ ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。
- ⑥ ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。
- ⑦ ホームページの追加リニューアル内容(研究委員会報告書データベースの改修等)を検討する。

#### 2) JCI 創立60周年記念事業実行委員会

総務部会、記念誌発行部会および特別講演部会にて下記記念事業を実施する。

- ① 記念式典および特別講演：2025年7月12日、場所：ベルサール半蔵門

② 記念誌および写真集を本学会 ホームページにて公開

3) コンクリート女性連携促進検討委員会

コンクリートに関わる女性の連携を促進させる具体的な仕組みを検討する。令和7年度の主な活動は以下のとおりである。

- ① コンクリートに関わる女性との通信方法の検討
- ② 建設産業女性定着支援ネットワークとの連携によるPR活動(建設産業女性定着WEBの更新・充実), ブロック意見交換会への参加, 全国大会への参加
- ③ 女性連携のための「現地見学および意見交換会」の開催(関東支部との共催)

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

水和発熱, 自己収縮および乾燥収縮に起因する初期応力の3次元温度応力・ひび割れ幅解析ソフト JCMAC3, 初期応力を考慮した3次元保有耐力解析機能を追加した JCMAC3-U, 2次元温度応力解析およびひび割れ幅解析ソフト JCMAC1・2 について, ユーザーサポート, 解析機能追加および国内外への普及を図る。令和7年度の主な活動は以下のとおりである。

- ① JCMAC シリーズ (JCMAC1・2, JCMAC3 および JCMAC3-U) のユーザーサポート
- ② マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025 の出版に対応させたプログラム修正
- ③ JCMAC3-PS (プレストレストコンクリート構造物の緊張力解析) の開発
- ④ JCMAC3-U 英語版への機能追加
- ⑤ JCMAC 初心者向けトレーニングセミナーの開催 (1回)
- ⑥ 温度ひび割れ幅解析に関する委員会報告書の出版 (2025年8月)
- ⑦ 成果報告会の開催 (2025年8月27日)

2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会

令和4年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図る。主な活動は以下のとおりである。

- ① 国内講習会 (千葉, 新潟, 松山, 鳥取) の実施
- ② 実構造物のひび割れ実態調査 (能登半島) の実施
- ③ 補修材料や工法に関する耐用年数 WG の新たな設置と運営
- ④ 2022年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑤ 2022年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑥ 2022年版指針ひび割れ判定ソフト Web版に対する質問や修正指摘等への対応

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動に加え, LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成・改良を行う。また, LECCA ソフトを利用している実務者ユーザーへのヒアリングを行い, 普及に

向けた課題の抽出とその解決策の検討を行う。さらに、コンクリート構造物の耐久設計や維持管理に関する知識と経験が不足している初学者向けの講習会や大学等での講義への活用方法を検討するとともに、その成果を教育プログラムの改良に繋げる。

## 8. 関連学会との協力活動

「(一社) 防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系 7 学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。

## 9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。

# [ 公 2 講演会等事業 ]

## 1. 年次大会事業

### (1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2025 (盛岡) を 7 月 16 日 (水) ~7 月 18 日 (金) の 3 日間、アイーナ+マリオス (文化ホール) で開催する。

- 1) 第 47 回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー: テーマ「カーボンニュートラル社会の実現に向けて 生コン業界への期待」
- 3) コンクリート構造物診断セミナー: テーマ「雪ニモマケズ 塩ニモマケヌ サウイフコンクリートニ ワタシハナリタイ」
- 4) 特別講演会:
  - ① 演題 放射光施設「NanoTerasu」が拓くサイエンスフロンティア  
講師 千葉大地 氏 (東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター)
  - ② 演題 材料科学から見たコンクリート  
講師 小野新平 氏 (東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター)
- 5) 見学会: ①もりおか探訪ツアー, ②岩手ダム巡りツアー
- 6) 懇親会: ホテルメトロポリタン盛岡
- 7) キング・オブ・コンクリート

## 2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

### (1) コンクリート技術講習会

2025 年度コンクリート技術講習会を 10 月~11 月にかけてオンライン (オンデマンド形式) で実施する。

## (2) 研究委員会

研究委員会所管の報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会」報告会  
日 時：9月2日（火） 13:00～17:00（予定）  
場 所：対面（東京都内）＋オンライン（ライブ形式＋オンデマンド形式）
- 2) 「コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会」報告会  
日 時：9月29日（月）（予定） 時間未定  
場 所：オンライン（ライブ形式＋オンデマンド形式）
- 3) 「コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会」報告会  
日 時：9月24日（水）（予定） 時間未定  
場 所：対面（東京都内）＋オンライン（オンデマンド形式）
- 4) 「構造性能評価のための鋼材腐食性状の診断・推定手法および構造解析に関するシンポジウム」  
日 時：9月5日（金） 10:00～17:00（予定）  
場 所：対面（東京都内）＋オンライン（オンデマンド形式）

## (3) 技術委員会

技術委員会所管の報告会，講習会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート基本技術調査委員会運搬 WG」報告会  
日 時：2025年7月4日（金）  
場 所：対面（本学会会議室）＋オンライン（ライブ形式＋オンデマンド形式）
- 2) 「コンクリート基本技術調査委員会の活動成果の報告および今後の活動に向けて」  
～コンクリート工事のあるべき姿を目指して～  
日 時：7月17日（木）  
場 所：対面（盛岡・マリオス会議室）
- 3) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025」講習会  
日 時：10月17日（金）  
場 所：対面（大阪市内）  
日 時：11月5日（水）  
場 所：対面（東京都内）＋オンライン（ライブ形式＋オンデマンド形式）

## (4) 普及委員会

普及委員会所管の講習会，セミナー，報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針 2022」講習会  
日 時：未定  
場 所：対面（千葉市内未定）  
日 時：未定

場 所：対面（新潟市内未定）

日 時：未定

場 所：対面（松山市内未定）

日 時：未定

場 所：対面（鳥取市内未定）

2) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC3 初級者セミナー

日 時：未定

場 所：対面（未定）

3) 「マスコンクリートソフト普及委員会」報告会

日 時：8月29日（金）

場 所：対面（東京都内）＋オンライン（ライブ形式＋オンデマンド形式）

**(5) 標準化委員会**

「コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量」のJIS 制定後に講習会を開催する。

日 時：未定

場 所：対面（東京都内）＋オンライン（ライブ形式）

**(6) 支部**

支部主催の講演会，講習会，報告会，見学会を次のとおり開催する。（確定している項目のみ記載）

1) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見学会

日 時：未定

場 所：未定

2) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座

日 時：未定

場 所：未定

3) (北海道支部) 支部総会（活動報告会）特別講演会

日 時：5月30日（金）

場 所：札幌ガーデンパレス

演 題：未定

講 師：宮森保紀氏（北海道大学）

4) (東北支部) 第20回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会

日 時：未定

場 所：未定

5) (関東支部) 支部総会特別講演会

日 時：5月23日（金）

場 所：都市センターホテル

演 題：建設分野における 3DP 技術の経緯や現状・将来展望等について（仮題）

講 師：石田哲也氏（東京大学）ほか

- 6) (関東支部) コンクリート女性連携促進検討委員会と連携した見学会や意見交換会  
日 時：未定  
場 所：未定
- 7) (関東支部) 「わかりやすいコンクリート講座～コンクリート実務の基本～」講習会  
日 時：未定  
場 所：未定
- 8) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会  
日 時：5月20日（火）  
場 所：名古屋大学 ES 総合館 1階 ES ホール  
演 題：未定  
講 師：未定
- 9) (中部支部) 支部総会特別講演会  
日 時：令和8年1月28日（水）  
場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス  
演 題：未定  
講 師：未定
- 10) (中部支部) 学生研修会  
日 時：9月頃  
場 所：未定
- 11) (近畿支部) 支部総会特別講演会  
日 時：5月20日（火）  
場 所：大阪科学技術センター・中ホール  
演 題：未定  
講 師：未定
- 12) (近畿支部) 親子体験セミナー  
日 時：9月頃  
場 所：未定  
演 題：未定  
講 師：未定
- 13) (近畿支部) 会員向け見学会  
日 時：11月頃  
場 所：未定  
演 題：未定  
講 師：未定

- 14) (中国支部) 支部総会特別講演会  
日 時: 5月23日(金)  
場 所: 広島市  
演 題: 未定  
講 師: 竹田宣典氏(本学会中国支部新支部長)
- 15) (中国支部) 技術・研究交流会  
日 時: 11月～12月  
場 所: 未定
- 16) (中国支部) 「わかりやすいコンクリート」講習会  
日 時: 12月  
場 所: 島根県
- 17) (中国支部) 「中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会」報告会  
日 時: 令和8年3月  
場 所: 未定
- 18) (四国支部) 支部総会特別講演会  
日 時: 4月24日(木)  
場 所: ホテル パールガーデン  
演 題: 未定  
講 師: 大内雅博氏(高知工科大学)
- 19) (四国支部) 「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告  
日 時: 4月24日(木)  
場 所: ホテル パールガーデン  
演 題: 「SDGs コンクリートの研究～骨材の可能性を追求する～」  
講 師: 皆川竜児氏(八幡浜工業高等学校)
- 20) (四国支部) コンクリートに関する技術情報交換会  
日 時: 上期1回, 下期1回  
場 所: オンライン(ライブ形式)
- 21) (九州支部) 支部活動報告会特別講演会  
日 時: 4月25日(金)  
場 所: 福岡ファッションビル8階Dホール  
演 題: 「コンクリート用混和材としてのフライアッシュの現状と運命」  
講 師: 佐藤嘉昭氏(大分大学 名誉教授)
- 22) (九州支部) 九州支部第7回学生シンポジウム  
日 時: 未定  
場 所: 未定
- 23) (九州支部) 技術者勉強会(若手研究者の会)

日 時：未定

場 所：未定

## [ 公3 表彰事業 ]

### 1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

#### (1) 論文賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞(論文賞)」を贈り表彰する。

#### (2) 技術賞

本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同(技術賞)」を贈り表彰する。

#### (3) 作品賞

コンクリートで構成され、美的価値または技術的価値あるいはその両方、独創性、および環境との調和において、優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同(作品賞)」を贈り表彰する。

#### (4) 奨励賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同(奨励賞)」を贈り表彰する。

#### (5) 功労賞

本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同(功労賞)」を贈り表彰する。

### 2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

#### (1) 北海道支部

支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生を対象にそれぞれ表彰する。

#### (2) 東北支部

支部表彰規程に基づき、優秀な作品や功績のあった会員を対象に表彰する。

#### (3) 近畿支部

支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者を対象に表彰する。

#### (4) 中国支部

コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター」の認定者とする。

#### (5) 九州支部

九州・沖縄地区の大学，大学院，高等専門学校において，コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生，修了生に支部長賞を与える。

## II 収益事業

### [ 収1 資格付与事業 ]

#### 1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

##### (1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月30日(日)，全国9都市において実施する。

##### (2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づいて，コンクリート技士・主任技士研修を，登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として，eラーニングにて，8月21日(木)から9月30日(火)まで実施する。

##### (3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて，コンクリート技士・主任技士研修を受講し，登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また，コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

#### 2. コンクリート診断士資格制度事業

##### (1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて，4月4日(金)から5月19日(月)まで実施する。

##### (2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月27日(日)，全国9都市において実施する。

##### (3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づいて，コンクリート診断士研修を，登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として，eラーニングにて9月に実施する。

##### (4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて，コンクリート診断士研修を受講し，登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また，コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

### **3. 資格・講習委員会**

各資格関係委員会での検討内容を審議し、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者の内定を行い、理事会に付議する。その他、必要に応じて資格審査会の開催および国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。

## **[ 収2 その他の収益事業 ]**

### **1. コンクリートテクノプラザ 2025**

コンクリート工学年次大会 2025（盛岡）と併行して、コンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

## **III その他**

### **1. 名誉会員の表彰**

本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

### **2. 終身会員およびフェロー会員の表彰**

コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

### **3. 定款・規則改定**

定款および学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

### **4. JCI 次世代構想特別委員会**

これまでの 60 年間で積み上げられてきた実績と反省を踏まえて、今後 本学会が果たすべき社会的な役割を再検討するとともに、近未来の活動指針となる行動計画（案）を策定する。

以上